

温暖化予測の前提は不合理だったと IPCC が認めた

杉 山 大 志 （すぎやま たいし）一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

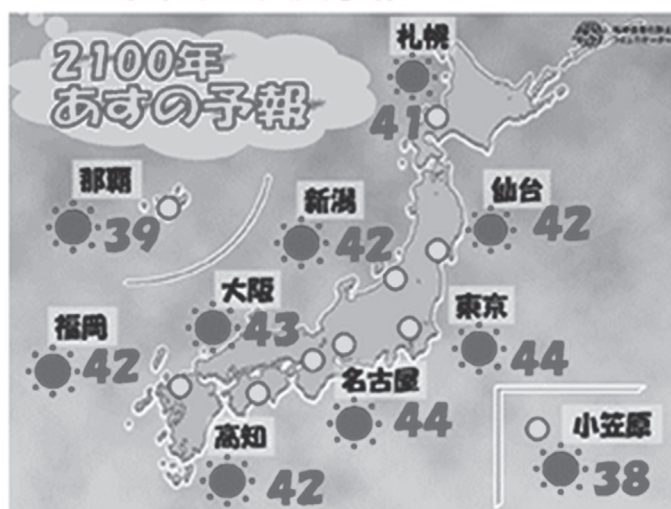
「温暖化対策をしないと、大変なことになる！」というシミュレーションで、政府は随分と国民を怖がらそうとしてきた。

例えば、環境省にこんなコラムがある：

コラム：2100 年未来の天気予報

環境省では、現状を上回る温暖化対策を取らなかった場合の予測に基づき、「2100 年未来の天気予報」という動画を作成しています。

2100 年未来の天気予報



資料：環境省

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/html/hj19010201.html>

さてこれはシミュレーション計算に基づいたものだ。文末の拙著に書いたように、このシミュレーション自体が、そもそも過去をろくに再現できていないようなものなのだが、それ以前に、この「温暖化対策を取らなかった場合」の計算の前提となる「SSP5-8.5 シナリオ（以下単に 8.5 シナリオと書く）」の CO₂ 排出量予測が多すぎる、という指摘は以前からあった。

そして今回、それを IPCC が認めたという大ニュースが流れた。